秋の清掃美化運動

「天高く馬肥ゆる候」と言われる快適な氣候になりました。

さて、この快的な氣候、人間や馬ばかり肥えるとは限りません。私共の大敵、蠅や蚊も來るべき春の活躍?に備え、冬籠りから春に卵を産めるような充分な体勢を整えるのです。「ねずみ」も「家ねずみ」は勿論「どぶねずみ」など戸外にいたものが家の中に入ってきて越冬するのです。

野に、山に、一家そろってハイキングも大いに結構ですが、その前にこれら害敵の繁殖を防ぎ、楽しい冬蚊と蠅のいない町づくりに秋の大掃除をしておきましょう。

「健康な生活はまず環境の改善から」

市では今月十日より二十日まで「秋の清掃美化運動」を行いますので、この期間内に是非とも家の内外の大掃除、下水溝の清掃などをさせるようお願い致します。

◎毎朝十分間清掃の実施
各家庭で毎朝十分間、家の外まわり、流し尻などを清掃して下さい。
この運動は本年春の清掃美化運動の重要行事として行われたものですが、単に運動期間中でなく、今後もずっと続けて習慣にするよう心掛けて下さい。

◎毎朝、毎月の清掃で集つたゴミは必ず道路側の一個所に集めておいて下さい。市役所に連絡あり次第処理します。

▽受ふん器（馬ふん受器）の取りつけ
受ふん器は留萌市清掃條例に基いて、取付けをお願いしているもので、現在実施しているのは残念ながら殆んどない狀態なので、今後は必ず取りつけるよう強く指導致します。

▽清掃運動の終つたのちに大掃除の状態を、市衛生委員、地区の関係者とともに巡視することになっております。

大掃除巡視日程

巡視日	巡視町名
十月二十一日	大町、港町
〃 二十二日	本町、明元町
〃 二十三日	幸町、壽町
〃 二十四日	錦町、旭町
〃 二十五日	開運町、末廣町
〃 二十七日	沖見町、見晴町、宮園町
〃 二十八日	栄町、船場町、元町
〃 二十九日	南町、千鳥町、高砂町、五十嵐町、花園町

巡視（檢査）日は別表のとおりですから、期間中に大掃除を終えなかつた家庭は、巡視の前の日までに必ずおえるようにして下さい。

写真は道路排水溝の清掃作業

ねずみは必ず驅除できる

「蚊とハエのいない村や町」は次々と実現されており、この運動の成果を物語っております。

「ねずみ」についても、最近に至り、國家的な大被害が漸く認識されるようになりまして、その驅除方法が種々研究されておりますが、俗に「ねずみ算」と言われるように繁殖が盛んで徹底的驅除の可能性については、有識者の間においても未だに疑問としているが少くないようです。

しかしながら「ねずみ」の徹底驅除が可能であることは既に幾つかの地区においてその実績が証明しているとおり不可能なことではありません。

大切なことは驅除する人々の熱意と努力次第であると思います。それも功をあせることなく「急がず然も休まず」の不断の努力が必要です。

以下「ねずみ」の徹底驅除の可能性についてその要点をまとめて述べることに致します。

◎なぜねずみの驅除の可能性に疑問がもたれるか

問　理想的な殺鼠剤がないから駄目ではないか。

答　なる程、今の処理想的な殺鼠剤はない。しかし現在の殺鼠剤をうまく工夫して使用することによつて目的は充分に達し得る。つまり使い方の問題である。

更に根本的な誤りは殺鼠剤に頼りすぎるなということである。環境的驅除即ちねずみのすみえないような環境をつくることが大切である。

仮に理想的な殺鼠剤が発見されたとしてもこのような努力がなされなければ完全驅除は望み得ないと思う。

問　ねずみ算式に殖えるから駄目ではないか。

答　なるほどねずみの繁殖力は強い。しかし一つの地区におけるねずみの棲息數は(1)食べものを得ること。(2)巣や通路を作り得ること。(3)勢力範囲があること等の條件によつて制限され、限度以上には殖えない。

つまり、自然界におけるねずみの生存競爭は極めてげきれつであり、或る限度以上はねずみ算式に殖えないことが多くの学者によつて証明されている。

問　開放的な日本家屋からねずみの出入を防ぐことは不可能である。

答　歐米の建物に比べ、日本の家屋がこの点で劣っていることは事実であるしかし現在の日本家屋でもねずみの出入口は、例えば流し尻の排水孔、換氣孔、ねずみの穴など大体きまっており、一寸した努力によってねずみの侵入を防ぎ得るのであり一方食べものの管理を徹底することによってねずみは自然に出入しなくなるものである。

問　いくらとってもまだ他所から入ってくるから駄目だ。

答　ねずみは沢山いても住みにくい環境に好んで入ることはない。まして一つの地区が一齊に驅除を行えばます〳〵効果が上るものである。

問　ねずみは悪かしこいからとても駄目だ。

答　ねずみは悪かしこいようで馬鹿なものである。たとえば誰が見てもわかるような通路を作ったり自分の体がやつと入るような小さな穴から入ることは安全だと考えている。従つてこうした簡單な基礎的な理解さえあればねずみの裏をかいてうまく捕えることは容易である。

以上お話申し上げたように「ねずみは驅除できない」という理由は一つもないのであります。私共はまずこれらの一般的な誤解を一掃して驅除に心掛けるべきであります。

（清掃係）

★　★

漁業調査にご協力下さい

市では十月一日から「沿岸漁業の臨時調査」をいたします。この調査はお尋ね致しますが、是非全国の沿岸漁業が近ごろ行づまり状態ですので、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

このさい新しい水産行政をたてることが必要で、たとえば誰が見てもわかるような通路を作ったりなおこの調査は絶対秘密を守られますので御安心下さい。

漁家の方々には、大變ごめんどうなことを色々とお尋ねしますが、是非ご協力下さいますようお願い申し上げます。

課長にきく

―市青山總務課長との対談―

問　今度の異動で市役所各課の總元締である總務課長になられての感想は。

答　私は元来税務畑で暮して来た者ですので、總務課という間口の廣い処へ廻されて実は面喰つております。今迄もそうでありましたが、各課との協調を密にいたしまして總親和の精神でやって參りたいと思つておりますし少しでも市長、助役の手足ともなることができればとそれのみ念願しております。

問　とりあえずやりたい仕事はどんなことですか。

答　色々とやりたいことは沢山あるのですが、先づ考えねばならないことは

① 市振興五ヶ年計画の改訂

② 新廳舍の建設

③ テレビ中繼局の設置

④ 留萌線列車系統の改善

とこの量質の整備などは是非実現させたいことですね。

第一に五ヵ年計画は、この十月たい望の遠羽線が全通して、遠く宗谷の炭田からの石炭まで留萌港から積出されるので、港灣計画が大きくかわつてきましたし、それに元町の大火で都市計画を變えなければなりませんので、こうしたことをとり入れて改訂して行きたいと思いますし、更にこのためにはどうしても関係各官廳や学識經驗者などの協力參加を求めたいと思っております。

第二の新廳舍の問題ですが、御承知のように市は財政再建の途上にありますので、なかなか困難のことでありますが、幸いに自治廳でも相当同情してくれるようなので金繰りのメドさえつけば一気に敷地問題なども考え、なるべく早期に実現を期したいものだと思います。

第三のテレビ中繼局のことですが、これは市街の半分の低地帶が、はつきりした受像聽取が出來ない狀態でありますほか値段の高い遠距離用の機械でなければだめだとか、アンテナを高くしなければならないとかその上留萌は潮かぜが強いので塩害でくさりやすいなど市民は大變不利益をうむっておりますので、文化の谷間にある市民の生活にうるおいを与えるため、また民度をたかめるためにも是非中繼局の設置を望みたいわけです。

最後に鐵道のことですがこれは將来の問題としては芦別～深川間の鐵道を一日も早く着工して貰うことから、達布～添牛内間の新運動留萌～幌延間の路線の整備やダイヤの問題など色々重要な事がらが多いのですがとりあえず

① 貨物列車と客車とを離して運転してもらうことやジーゼルカーを入れてもらつてのスピードアップ、それとともに運転回数もふやして貰いたいし……。

② 函館本線や札沼線の接続時間を短かくしてもらうこと。

③ 通學、通勤列車のダイヤを改正し。

④ 函館本線への各列車接続のためのダイヤをつくって欲しいなどは是非遠羽線全通と共に改正してもらいたいと思つております。

留萌市勢回顧表　一回

この表は毎月續けてのせますから、切りとつて保存していただければ幸です。

年號	年	史実
寛永	元（1624年前）	（寛永元祿年間） ○蝦夷地に屢々戸口の調査が行われたが留萌地方の人口については何等の記録もない ○元祿の始め幕府命をもつてカモイ岬以北に婦女の通行を禁じた事傳承されている事から奥蝦夷地（留萌地方）へ和人の男子多數入りこんで漁業に從事したものと考えられる。
	十二（1612年前）	○増毛、留萌、苫前、天塩の四領を家臣の采邑とする。増毛、留萌領は下國兵太夫に支配せしめる（下國兵太夫なる藩士は留萌開拓の先驅者であろうが、只留萌、増毛方面の蝦夷と交易して利益をあげた程度で漁業開拓の始祖たる榮譽を担う迄に至らなかつたものと推考される） 以下安永年間迄七十九年間は天塩沿岸地方では和人と夷人との接觸が少なかつた爲か資料は残つていない。
安政	四（101年前）	○西蝦夷地に天然痘流行、夷人の病死多かつたが、ル、モッペは罹病者なしとの古記あり、その死者夷人六百四十七人 ○留萌は松前直領であつた年々土人からコンブ、サケ、マス、アワビ等を献納させ貢税に充てたものようである。
天明	六	○海上安全漁業満足祈願の為、当時の留萌場所支配人渡島国松前郡福山平民栖原彦右工門、安藝國佐伯郡嚴島神社の御分靈を勤請これ、留萌場所開拓最初の神社である。寛政年中運上家を置かれてより同所に於て奥蝦夷鎮壽の神社として奉祀せられた。 ○ル、モッペ持場（シラケよりオニシカ迄凡そ八里） ○松前直領請負人、江戸標原屋角兵衛の手代吉次郎（ル、ルッペ支配人） （天明六年　近藤重藏　日記より） ○栖原家留萌、苫前漁場全部の請負を命ぜられる。しかしいつの時代に留萌場所の請負が村山家から栖原家の手に移つたかが、これを確証する資料がないのが遺憾である。 （栖原家） 栖原家は源義家に出て攝津国川部郡北村郷を領し北村をもつて氏としたのであるが戦國の世紀州に移り元和五年初代栖原角兵衛が紀州有田郡栖原に住んでから北村の號を捨て栖原を代とし角兵衛を以て通稱とする事になり、これより栖原家の發展をとげるに至つた。初代栖原角兵衛は元和の末年奥州萩原に至つて漁業を試みのち上總に移住して漁場を開拓した。二代目角兵衛は漁業のかたわら元祿正德の頃江戸に來て木材業を營んで成功し、三代目角兵衛は實歴年間支店を陸奥國南部大畑に設けて北進策に成功した。四代目を経て五代角兵衛に及び明治二年結起して蝦夷に到り、先づその支店を松前町に設け木材商から一転して漁業のかたわら内地と蝦夷地の物資交換の事業即ち運輸を以つて立つに至り、屋號を栖原と稱するに至つた。